



2009年6月2日

倒産集計

信用交換所京都本社

09年5月繊維倒産

件数は減少ながら、負債額は前月を上回る

全 国 発生件数 = 34件 負債額 = 172億8000万円

2009年(平成21年)5月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は34件で、前月比で6件(15.0%)、前年同月比で21件(38.2%)減少した。近年40件台を割り込んだのは、2006年(18年)1月39件、同年12月39件、2008年(20年)8月37件。

負債額は172億8000万円で、前年同月比では33億1700万円(16.1%)減少したものの、前月比で53億7400万円(45.1%)増加した。月末に㈱クラヴィス(東京都千代田区、婦人服製造・小売、負債額25億5400万円)、馬淵繊維㈱(高松市、婦人ニットウエア製造、同22億6200万円)、㈱川上(大阪市、スポーツウエア製造、同10億円)が相次いで破たんしたほか、西出㈱(名古屋市、婦人服・洋品小売、同21億4300万円)、㈱アップワード(福岡市、カジュアルウエア卸、同15億円)など負債額が10億円を超える大型倒産(計5件)が発生したことが、件数減にもかかわらず負債額を押し上げる要因となった。

一部では5月危機説などが囁かれ、5月20日に発表された1~3月GDP成長率も4.0%(年率換算15.2%)と今年に入ってから景況悪化を裏付ける数値となり、上場企業の破たんも毎月発生(計17社)した。ただ、繊維業界においては、決済の端境期に入ったことに加え、中小企業を中心に「セーフティネット」の利用により資金繰りが緩和された先が見受けられ、これが倒産件数の減少につながったものと予想される。とは言え、当月は新型インフルエンザの流行により関西圏を中心に外出を手控える消費者が増えたことで、店頭小売事業者は大きなダメージを受け、前年比大幅な売上低下に陥った先が散見されるほか、メーカー・問屋筋の展示会も低調だったとみられる。マスクなどの特需、外出手控えによる通販業の好調などが伝えられるが、インフルエンザは秋以降さらに本格化すると推測されるだけに、先行きに不安を残す月となった。

今後は通常であれば倒産件数は落ち着く時期だが、店頭の不振など不安要素が多く、セーフティネットの効果も一巡してくると、再度の資金調達難に陥る先が出てくることも予想され、楽観視はできない状況にある。

業種別では「紳士・婦人・子供・被服製造卸」13件、「小売商」9件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」4件、「織物卸」3件、「その他」2件、「染色整理・特殊加工」「織物製造」「呉服・和装製品製造卸」各1件。原因別では「業績ギリ貧」が25件で全体の73.5%を占め、以下は「業況急変」4件、「放漫経営」2件、「信用度薄弱」「資金力薄弱」「融手連鎖」各1件だった。

京 都 発生件数 = 2件(前年同月2件) 負債額 = 5億3000万円
(前年同月1億9600万円)

滋 賀 発生件数 = 2件(前年同月1件) 負債額 = 4億4000万円
(前年同月5億5000万円)